

1. 第三者評価報告概要表

作成日 平成21年8月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2874200252		
法人名	社会福祉法人JAあいおい福祉会		
事業所名	グループホーム こすもす倶楽部		
所在地	相生市野瀬1356番地 (電話) 0791-24-0600		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成21年7月7日	評価結果確定日	平成21年9月4日

【情報提供票より】 (21年5月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	16 人	常勤 13人, 非常勤1人, 常勤換算15.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	26,000 円	
敷金	有() 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (5月25日現在)

利用者人数	15 名	男性	1 名	女性	14 名
要介護1	6	要介護2	4		
要介護3	2	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 85.3 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平田クリニック 室井整形・心療内科
---------	-------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな立地条件の中で、ご利用者一人ひとりの思いを大切にしながら、自立した生活が過せるよう支援している。地域の行事やお祭りなどにも参加し、住民の方との交流が活発に行われ、日常的にも散歩途中に野菜を頂いたり、畑作りの手伝い等積極的な交流の機会を持っている。施設見学も積極的に受け入れ、公民館活動に参加するなど、地域に溶け込んでいる。日々の暮らしについては、ご利用者の日常生活習慣を尊重し、日課を決定せず、利用者一人ひとりの希望を聞きながら自己決定を促し、利用者のペースを尊重している。また、ダイバーショナルセラピーを実践し、ご利用者一人ひとりのできることの中から楽しみごとを通して自信を持って充実した暮らしが出来るよう支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 評価結果は会議で職員に報告している。運営推進会議においても評価結果を開示し、意見を参考にしながら、評価結果を踏まえ計画的に改善を行い、サービス向上を図っている。家族には、評価の閲覧を呼びかけている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 今年度の評価についても管理者から職員に評価の意義を説明し自己評価内容について意見を聞き作成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 市・包括職員・地域住民・家族代表職員の参加により2ヶ月に1回開催している。会議においてグループホームの現状の報告・意見交換を行っている。評価受審については評価の意義を説明し、受審後は評価結果を報告し、委員からの意見を基に改善に取り組んでいる。会議後に職員へ会議録を回覧し報告している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) ご利用者・家族からの苦情・要望・意見は聞き取った職員がその都度苦情・要望聞き取り書に記入し、運営推進会議・職員会議で開示している。また、苦情・要望・意見の検討結果については管理者がまとめ職員・家族にも説明・周知させ、データを基にサービス向上に活かしている。ご家族の訪問時はご利用者一人ひとりについて個別の報告を行い、毎月ユニット便りを発行し、ご利用者の身心の状況・生活の様子を職員が手書きで記載して報告している。また、ユニット便りの中には職員の異動・入退職・行事など施設の情報も報告している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域との交流も多く地域の行事やお祭りなどにも参加している。日常的に、散歩途中に野菜を頂いたり、畑作りの手伝い等積極的な交流の機会を持っている。施設見学も積極的に受け入れ、公民館活動に参加するなど、地域に溶け込んでいる。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を具体的な言葉で見やすい位置に掲示し、広報誌にも掲載している。ご利用者・ご家族には入所時に重要事項説明書で理念を説明している。また職員は理念を理解しケアに活かしている。今年度中に地域密着型サービスとしての理念の見直しを計画している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に理念を唱和している。カンファレンスの際に理念に立ち戻り、日々のケア内容を職員間で検討し、理念に沿ったサービスの質向上を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流も多く、地域の行事やお祭りなどにも参加している。日常的に、散歩途中に野菜を頂いたり、畑作りの手伝い等積極的な交流の機会を持っている。施設見学も積極的に受け入れ、公民館活動に参加するなど、地域に溶け込んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価結果は会議で職員に報告している。運営推進会議においても評価結果を開示し、意見を参考にしながら、評価結果を踏まえ計画的に改善を行い、サービス向上を図っている。今年度の評価についても管理者から職員に評価の意義を説明し自己評価内容について意見を聞き作成している。またご家族には、評価の閲覧を呼びかけている。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>市の関係者・包括職員・地域住民・ご家族代表職員の参加により2ヶ月に1回開催している。会議においてグループホームの現状の報告・意見交換を行っている。評価受審については評価の意義を説明し、受審後は評価結果を報告し、委員からの意見を参考にして改善に取り組んでいる。会議後に職員へ会議録を回覧し報告している。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の介護保険課には、直接出向いて、運営推進会議への参加を依頼している。ご利用者の介護保険の手続き等でも交流を持っている。ユニットの増室についても度々出向き担当者と相談を重ねた。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族の訪問時のご利用者一人ひとりについて個別の報告を行っている。毎月ユニット便りを発行し、ご利用者の心身の状況・生活の様子を職員が手書きで記載して報告している。また、ユニット便りの中には職員の異動・入退職・行事など施設の情報も報告している。必要時は電話・FAX・メールの連絡を行いきめ細かい情報の交換を行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者・ご家族からの苦情・要望・意見は聞き取った職員がその都度苦情・要望聞き取り書に記入し、運営推進会議・職員会議で開示している。また、苦情・要望・意見の検討結果については管理者がまとめ職員・家族にも説明・周知を行い、データを基にサービス向上に活かしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や退職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職・異動の際のご利用者への影響をを最小限にするために普段から各ユニット職員の交流を活発に行い馴染みの関係を築いている。退職や異動があるときは、広報誌に公表し、ご家族への戸惑いを少なくするようにしている。運営者・管理者は退職者・長期休暇中の職員が訪問しやすいように配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の研修計画を立て、職員全員が参加できるように工夫しながら施設内研修を月1回実施している。外部研修は段階的に学べる機会を確保している。また職員が積極的に研修する機会を持ち専門資格習得を奨励している。新人研修・異動時の個別研修も充実している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>周辺地区のグループホームでネットワークを作り情報交換、同業者間での交流を図っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>馴染みの関係作りができるよう、入居前にご本人・ご家族の事前見学の機会を勧めている。施設への事前訪問時に心身の状況を把握し、十分コミュニケーションを持ち、スムーズな入居に至るよう支援している。入居決定後、見学や訪問を行い、顔見知りの関係を作るように努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	入居前の生活歴、趣味、特技等、ご家族から聞き取った情報を活かしながら、入居後も生活を共にしていく中でご利用者の「出来ること」「出来そうなこと」を見出し自立に向けての支援がなされている。加齢に伴い出来ることが少なくなっていく中で、調理・畑仕事・掃除など自然にホーム内での役割が決まっており、職員の支援のもと、一人ひとり自主性をもってホーム内の生活を楽しく過ごしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	加齢に伴う心身機能の低下・認知症状の進行により思い・要望の表出が不十分になっていく中で職員は一人ひとりの思いを受け止め、生活リズムに合わせて自立した生活が送れるよう支援している。ダイバーショナルセラピーを取り入れ、その人らしさが活かせるケアに努めている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を取り入れ、ご利用者・ご家族から収集した生活歴、出来ること出来ないこと、興味のある事柄などを基にアセスメントし、担当者が主体となってケース会議を持ち利用者の現状を踏まえ、起こりうるリスクを含め、十分に話し合い、家族の意向や思いに沿った個別具体的な介護計画を立てている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>申し送りノートやケース記録・チェック表などを活用し、日常的に状態の観察を行い個人記録・モニタリングをもとに、ケース会議で課題検討し、定期的な介護計画の見直しを行っている。また、ご利用者一人ひとりの状況の変化・ご家族の要望に応じ随時の見直しを行い同意を得ている。介護計画の見直しの時期を一覧表にまとめずれが生じないようにしている。</p>		<p>ご利用者の状況に変化が無い場合も利用者の状態変化への早期対応や、予防的な視点から1ヶ月に1回の介護計画の評価が望ましい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々^の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>近隣の整形外科へのリハビリ受診・かかりつけ医の定期的な受診同行などご利用者個々の要望に応じた支援が行われている。また随時の買い物支援など多様に対応している。</p>		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関の内科の往診・整形外科・歯科・眼科等と連携を図り、ご利用者の状態に応じて対応している。協力医療機関の医師と同法人施設の看護師の支援体制・緊急時の連絡体制も出来ている。心療内科・認知症専門医も定期的に往診がある。かかりつけ医への受診は職員が同行している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化・終末期の指針は整備しているが対応事例はない。ご家族の要望を聞きながら、今後に向けて職員と対応について共有を図る予定である。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>ご利用者一人ひとりの尊厳を大切にしたい、言葉かけや対応に細心の配慮が伺える。ご利用者一人ひとりの入浴・排泄に関する個別マニュアルを作成し、プライバシーへの配慮を行っている。個人記録の背表紙は個人が確認し難いように配慮されている。職員に対しては、入退職時に個人情報の取り扱いについて誓約書を交わしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にしたい、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご利用者の日常生活習慣を尊重し、日課を決定せず、ご利用者一人ひとりの希望を聞きながら自己決定を促し、ご利用者のペースを尊重しながら日々の生活が送れるように支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご利用者の好みを生かした季節の食材を使用して手作りの料理を作っている。自然な形で食事の支度・食卓の準備・後片付け等の役割ができています。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、ご利用者のご希望に沿うようにしている。個別入浴マニュアルを作成し一人ひとりの自立と安全性・羞恥心などに配慮をしている。状態に合わせて見守り・一部介助等ご利用者の身体状態・プライバシーに配慮した支援が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者一人ひとりの生活の中で畑仕事・掃除・調理、配膳、下膳などの自然発生的に役割が出来ている。また、ダイバーショナルセラピーを実践し、ご利用者一人ひとりのできることから楽しみごとを通して自信を持って充実した暮らしが出来るよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者が自発的に、自然に恵まれた施設周辺を毎日散歩している。買い物・外出に出かける機会も多くご利用者の希望に沿った外出支援が行われている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	立地条件的に門扉は施錠しているが玄関・居室・リビングから庭への出入りが自由にでき閉鎖感を感じられない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防・避難訓練を併設施設と年2回実施する他、ホーム独自で年2回避難訓練のシュミレーションを行っている。自然災害への対応については運営推進会議の席で話し合われている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の好みを聞きながら、全体の栄養バランスは併設施設の管理栄養士の助言を受けながら献立を作成している。また、ご利用者の身体状況に合わせ柔軟に対応している。食事量・水分量は毎食記録し職員間で情報を共有できるようにしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはご家族や地域の方々が寄贈された農機具や家具が飾られ、親しみのある落ち着いた雰囲気を感じられる。リビングは自然光が差し込み開放感のある居心地のよい共有空間に置物・季節の花が飾られ、五感刺激となっている。また、随所にソファを設置し、ゆっくりとくつろぐ空間も用意されてる。共有空間スペースの畳のコーナーは人の視線を気にせず一人で過せる配慮がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、家族と相談しながら、家庭で使っていた家具や道具・仏壇・日用品を持ち込み家で過していたときと暮らしぶりが変わらず安心して過せるように支援している。各個室から自由にベランダに出ることが出来、閉塞感を感じず自由な環境で過ごせるように配慮されている。		

は、重点項目。